令和５年度「山形学」第５回講座　実施報告書

◆日　時：１０月２１日（土）１３：３０～１６：２０
◆会　場：遊学館３階第１研修室
◆テーマ：大テーマ「山形の歴史的成り立ち」
　　第５回テーマ「山形の歴史的成り立ち」
◆趣　旨：幕末期の庄内の歴史と戦国期から江戸時代の最上氏の活動に注目して山形の歴史的成り立ちを学びます。
◆内　容：講　　師：門松秀樹氏（東北公益文科大学教授）
　　松尾剛次氏（山形大学名誉教授）
　　コーディネーター：廣瀬隆人氏（「山形学」企画委員）
◆プログラム
　１３　：　３０　開講
　　門松秀樹氏　講話
　１４　：　２５　松尾剛次氏　講話
　１５　：　１５　休憩（１０分間・質問票回収）
　１５　：　２５　質疑応答
　１５　：　５０　廣瀬コーディネーターまとめ
　１６　：　００　講座　終了
　１６　：　０５　閉講式
　１６　：　２０　閉会

◆第５回参加者：４１名
◆主　　催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団　　後援：山形県教育委員会
◆当日の様子

門松氏は、幕末の庄内藩について詳しい資料をもとに興味深いお話をしてくれました。領民が酒井藩の転封阻止を幕府に嘆願し、受け入れられた「三方領地替」事件は、よく知られたエピソードではあるが、領民が藩主を慕う理由や「三方領地替」の話が出たきっかけ、撤回された後の水野忠邦による報復など、これまであまり知られてこなかった背景が詳細に解説され、深い考察にうなずき聞き入る受講生が多かったです。また、昏迷する幕末の政治情勢の中、江戸市中の警護など庄内藩が果たした役割や、戊辰戦争（庄内戦争）に突入していく様が克明に明かされ、庄内藩の強さの背景には、藩主の強力なリーダーシップの下の藩内の強固な結束力とともに、領民が一体となって協力し新政府への内通がなかったことなど藩主と領民の関係、強い郷土愛があると語られました。時代に翻弄される庄内藩の様子が鮮明に浮かぶようなお話の数々でした。

松尾氏は、山形の歴史的成り立ちを中世に注目し、村山地域を中心に説明してくれました。鎌倉幕府による出羽に地頭を置いた支配、鎌倉幕府滅亡後の南北朝期、足利尊氏に奥州管領として送り込まれた斯波家兼を契機に今の山形は斯波（最上）氏による支配となったなど、歴史の流れを解説されました。その後山形を治めた最上義光の一生を、豊富なエピソードを織り交ぜ、図解をもとにわかりやすくお話されました。義光は村山地域のみならず、庄内平野の新田開発や最上川水運や酒田港の整備を行うなど次世代の山形が発展する基礎を築いた武将であり、もっと評価されるべき人物だと熱く語りました。

コーディネーターの廣瀬氏は、お二人の講話から、庄内藩の強さの背景には藩主のリーダーシップだけではなく藩と領民が一致団結してまとまったことや郷土愛の強さがあったこと、最上義光も立派なリーダーで石高は５７万石実際には１００万石とも言われているが、その豊かさは領民の勤勉さ、労働力がもたらしていることを知ったと述べられました。

歴史や民俗を学ぶことは、単に昔こういうことがあったというだけではなく、これから自分たちの地域をどんなふうに考えて生きていけばいいか、ヒントではなく答えがあると強調された。「山形学」では、これまで自分たちが暮らす地域の歴史や民俗、自然等様々なテーマを取り上げ、地元のことを学んできた。未来をどう生きるかの答えは実は我々の地域の足元にある。「もう一回地元を見直してごらんと言われているように思う」とまとめられた。

今年度の「山形学」では、歴史民俗的な視野に立って山形の成り立ちを振り返り、そこに生きる人々の歩みや暮らしを見つめ直すことを通して、地域の魅力を再発見した大変有意義な講座となった。

＊参加者の声＊

- 幕末の庄内藩の歴史について認識を深めることができました。
- これまで詳しく知らなかった「三方領地替」の真相を知ることができ、藩主が領民にどれほど慕われていたのか理解できました。これを契機にもっと庄内の歴史を知りたくなりました。
- 庄内の知られざる事実が次々と明かされ、興味深いお話ばかりでした。
- 講師のお話がとてもわかりやすく、素晴らしかったです。また詳細な資料のおかげで、庄内の歴史をよく理解することができました。
- 平安から南北朝までの、最上氏に至るまでの歴史もよくわかりました。その後の波乱にとんだ最上義光の一生もよく理解することができました。
- 最上義光が、村山地方だけではなく、庄内地方の新田開発や最上川整備などを行った偉大な人物だったことを知ることができました。

〇当日の様子

講師：門松秀樹氏

講師：松尾剛次氏

コーディネーター：廣瀬隆人氏

会場の様子

閉講式

修了生代表あいさつ

菊地企画委員長あいさつ

企画委員